



Title	特集1 セクシュアリティ
Author(s)	
Citation	臨床哲学のメチエ. 2000, 6, p. 3-3
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/6204
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

特集 1 セクシュアリティ

昨年度より臨床哲学のメンバーの数名が集まり、ジェンダーとセクシュアリティの問題について継続的に話し合う機会をもっています。今回の特集では、そのような活動の一部を報告するとともに、さらに、学内外でセクシュアリティに関わる問題に取り組む人たちに文章を依頼し、それを執筆者を含め編集者全員で討議したうえで掲載しました。

今後の活動方針を含め、編集に加わった者たちが留意した
のは以下の点です。

セクシュアリティを“研究の対象”としてセクシュアリティについての「権威ある」知を求めるのではなくこと。いつ誰が誰にどの場所でどのように語るのかという実践のレヴェルにとどまること。一部の人々のなかで議論を深めるというよりも、より“外”へと展開する運動を重視すること。ローカルなお喋りに陥ることなく、どのような個別的な場所においても牛じている普遍的なものに焦点を合わせること。

以下に掲載する文章たちはいずれも確定したメッセージというよりも、発せられたばかりの問いかけとして読まれ、別の時、別の場所で応答されることを望んでいます。